資料　2

敬語小委員会における論点の整理－２

（１）「具体的な指針」の想定する対象者について

○　敬語が必要だと感じているけれども，現実の運用に際しては困難を感じている人たちに対して，その適切な運用に資する分かりやすい指針が必要ではないかと考えた（国語分科会報告）。
○　学校教育（日本語教育を含む。）や社内教育で利用できるという観点

（２）「具体的な指針」が扱う範囲について

○　非言語（身振りなど）まで含める。

○　敬意表現は，話し言葉ばかりでなく書き言葉においても見られるものである。さらに，言葉以外の種々の側面，すなわち，表情，身振り，行動，服装などにまで広げて考えることもできるが，ここでは言葉，主に話す側から見た話し言葉に関係するものを扱うこととする（答申「現代社会における敬意表現」）。

○　答申で定義する「敬意表現」のうち，「具体的な指針」として示す必要のある部分に限定する。

（３）答申「現代社会における敬意表現」との関係について

○　答申「現代社会における敬意表現」の趣旨を踏まえ，その趣旨が確実に生かせるような「具体的な指針」の作成を目指すべきである（国語分科会報告）。
→　＜答申「現代社会における敬意表現」の趣旨＞をどうとらえるか。
→　＜答申「現代社会における敬意表現」の趣旨＞を＜確実に生かせる＞ということをどう考えるか（⇔「国語分科会報告」の中の具体例）。

（４）「具体的な指針」のイメージについて

◎　大きくは，「前文」と「本編」で構成したらどうか。「敬意表現の考え方」や総論的なことは前文に述べ，本編では具体例を中心にしたらどうか。
→　前文で取り上げる内容は何か（本編を生かしていくための基本的認識等）
→　本編で取り上げる内容は何か（例えば，評価のゆれている表現の整理等）
○　具体性をどのように持たせるか（複雑な敬語使用の実態をどう具体例に反映させていくのか，具体例の選び方等）。
○　冊子の分量をどう考えるか（大部のものか，コンパクトなものか）。
○　付録として，ＤＶＤやＣＤを付けたらどうか（ｅ－ラーニングの観点も）。

（５）「具体的な指針」の普及方策について

○　普及・浸透させていくために必要な観点は何か
→　日常生活で役立つ，分かりやすく取っ付きやすい，簡潔な記述という観点
→　現実の敬語使用の実態との乖離をどのようにとらえていくのかという観点